

「持続可能な開発のための教育(ESD)」の充実のために

# ESD実践事例集



広島県教育委員会

# 目 次

実践事例集の活用に当たって .....	1
---------------------	---

## 実践事例

### < 小学校 >

1 福山市立駅家西小学校 .....	2
2 海田町立海田東小学校 .....	4
3 三次市立安田小学校 .....	6

### < 中学校 >

4 大竹市立栗谷中学校 .....	8
5 広島県立広島中学校 .....	10
6 尾道市立原田中学校 .....	12

### < 高等学校 >

7 広島県立呉三津田高等学校 .....	14
8 広島県立広島井口高等学校 .....	16
9 広島県立高宮高等学校 .....	18

## 実践事例集の活用にあたって

本事例集は、E S Dの指導資料「新学習指導要領に示された『持続可能な社会』の実現のために」(広島県教育委員会)に示した基本的な考え方や児童生徒に身に付けさせたい力が具体的な実践事例を通して理解され、各学校の今後の取組の参考となるように作成しました。

各学校の実践事例は、次のような構成・内容で作成しています。

### 1 活動概要

学校全体のE S Dの取組を示しています。

### 2 本実践事例について

事例の解説を掲載しています。特に「(2)指導のポイント」については、3つの「E S Dを通して児童生徒に身に付けさせたい力」( )に係るものに下線を引き、どの力と関係しているかを示しています。

### 3 学習指導案

実践の具体的な様子を学習指導案で示しました。

### 4 児童生徒の反応

実践後の変化がわかるように、児童生徒が書いた感想や指導者が見取った様子を掲載しています。

## E S Dを通して児童生徒に身に付けさせたい力

### 1 環境の保全と経済の発展の両立を探究するなど、多面的・総合的に考えることができる

自然環境を守っていくことが大切である一方で、地域の人々が生活していくための環境整備も大切である。環境問題に限らず、簡単に答えが出ない問題を、様々な角度から考え、議論していくことを通して総合的に考えることができる力が求められている。

### 2 立場や考え方の違う人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる

地球上では、異なる歴史や伝統、生活習慣をもつ人々がそれぞれの社会を形成して暮らしている。都市部と地方、先進国と発展途上国などで、立場や考え方が異なることも少なくない。相手の考えを理解し、尊重しながら、議論していくことを通して協同的に課題を解決することができる力が求められている。

### 3 誰が取り組んでも持続するようなシステムを考え、構築に向けて主体的に行動することができる

一部の関心が高い人々しか協力してくれない方法では、多くの人々が参加し、将来の世代まで続くような解決策にはならない。様々な考え方を持つ様々な人々が行動しても、問題が解決に向かうような「システム」の構築に向けて、議論していくことを通して主体的に行動できる力が求められている。

# 地球時代を生きるための考え方を育む環境教育

## 福山市立駅家西小学校

### 1 活動概要

21世紀の地球時代を生き、「輝きのある未来」にするための教育として、全学年でESD（持続発展教育）を推進している。本校では、3年前から全学年がESD関連カレンダー（各教科等の指導内容をESDの視点で関連付けた年間指導計画）を作成しており、現在は、そのカレンダーを基に各学年が3つの視点（環境教育・多文化国際理解・人権平和）で、系統的に学ぶことができるようカリキュラムを工夫して取組を進めている。

このことにより、児童に持続可能で希望のある未来社会の担い手となるための資質・能力（行動力と実践力）を育むことをねらいとしている。

### 2 本実践事例について

#### （1）本事例実施の背景・これまでの取組

スタートは、6年前に福山市都市交通圏交通円滑化総合計画推進委員会と連携して始めた「学校TFP（トラベル・フィードバック・プラン）」の取組である。今年度の5年生も福山市都市交通課の職員の方を講師に迎え、CO<sub>2</sub>に関する実験を行った。実験結果から、地球温暖化（大きな原因はCO<sub>2</sub>）の問題は、自分たちの住んでいる福山市にもあてはまることに気付き、また、車の利用によってCO<sub>2</sub>が大きく排出されていることを実感できた。児童は、CO<sub>2</sub>排出量を減らすために家の人の「クルマ利用調べ」を行い、具体的な「行動プラン」を作成した。その行動プランを実践することで、CO<sub>2</sub>を確実に減らすことができることを実感するとともに、プランを継続することの難しさを学んだ。

この学びを日々の実践に活かすために、温暖化に対する取組を考え、現在は児童一人一人が環境家計簿（エコ家計簿）の記入を継続したり、校内の「エコ地球環境隊」として水の出しすぎや電気消し等の呼びかけをしたりしている。

#### （2）指導のポイント

単に「車に乗らなければCO<sub>2</sub>は減るから、車に乗らないようにすればいい」という考えを導くのではなく、車を利用せざるを得ない人のことを考えさせたり、CO<sub>2</sub>をなるべく出さない移動方法やそのメリット、デメリットを考えさせたりするなど、多角的に考えさせるようにする。（付けたい力1, 2）

地球温暖化の反対論にも目を向けさせ、いろいろな情報を知った上で、自分たちはどう地球温暖化に向き合い何をするかを考えさせる。（付けたい力2）

「ESD関連カレンダー」に基づいて、各教科や領域等で身に付けた知識・技能を活用し「課題意識 課題設定 課題追究 相互交流 実践行動」という問題解決型学習システムをつくる。

地球温暖化の現状の調査、「環境家計簿」の活用など実験や体験等を通して環境問題への意識を高めるとともに、観念的な学習に終始するのではなく、自分たちの生活と密着させながら環境問題を考えていけるようにする。

### 3 学習指導案

本時の授業... E S D関連カレンダーに基づいて学んだ各教科の自然や環境に関する学習内容と学校TFPの活動で学んだことを活かし、地球環境を守るためにできることを考えさせる実践である。

(1) 本時のねらい

地球温暖化の現状を自分たちの身近な問題として捉え、自分たちにできる取組を考える。

(2) 対象学年 第5学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を把握する。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">CO<sub>2</sub>を減らすためにできることを考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校TFPの実験やグループでまとめたことを想起させる。</li> <li>・地球温暖化との関係を明確にした板書にする。</li> </ul>	
自力解決	3 理想の地球の姿を思い描いてみよう。 4 CO <sub>2</sub> 削減のためにできることを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人や家庭・学校全体でできること。</li> <li>・他の人や団体をお願いすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想の姿を思い描き、そこから逆に考え、今何をすべきかを考えさせる(バックキャスト)。</li> <li>・(できそうにないと思ったことでも)いいと思うことや、やってみたいと思うことは全て付せんに書かせる。</li> </ul>	
集団解決	5 話し合ったことを出し合いまとめる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">個人や家庭で </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学校全体で </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域等で </div> </div> 6 これからの活動の見通しを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的にどんな方法ですか。</li> <li>・取組のために必要なものは何か。</li> <li>・いつまでにするのか。</li> <li>・実現するために誰にどんな形でお願いするのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙に貼りながら整理させる。</li> <li>・なぜそれをするよいか根拠を説明しながら発表させる。</li> <li>・違う立場の人のことを考えているか、本当にみんなで実行することができるものかを考えさせる。</li> <li>・今後の見通しが具体的になるようにする。</li> <li>・次時までに自分が何をしておかなければならないのかを確認する。</li> </ul>	地球温暖化の現状を自分たちの身近な問題と捉え、自分たちに実行可能な取組について考えている。
まとめ	7 本時のまとめをする <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の一步より百人の一步をめざすことにより、地球を救うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の言葉でまとめさせる。</li> </ul>	

### 4 児童の反応(授業後の感想等)

今日は、地球のためになることを考えました。理想の地球を考えたのと実際の地球とは大きな差があると思いました。ぼくは、家でゲームとテレビの時間を決め守っています。このことを駅西小のみんなが実行すれば二酸化炭素の量を減らすことができると思います。学校の人によびかけることをしていきたいです。

私たちのグループでは、電気を消すことやコンセントをぬくという行動をし続けている人がたくさんいました。10月にある地域の古墳フェスタでもよびかけをしたらいいと思います。たくさんの方が協力すれば、それだけたくさんのCO<sub>2</sub>を減らすことができるからです。





# 豊かな人間性を育む環境教育

## 海田町立海田東小学校

### 1 活動概要

海田東小学校では、ユネスコ国内委員会や広島県教育委員会が示しているESDを通して付けたい力を踏まえ、主体的に行動する実践的な態度、科学的なものの見方や考え方、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などの資質・能力の育成を目指して取り組んでいる。

本校のすぐ近くには、2級河川の瀬野川の支流である三迫川が流れている。本校は、この川を教材として4年前から全校児童による環境教育に取り組んできた。生活科、理科、総合的な学習の時間を中心とした系統的なカリキュラムを作成し、年間を通じて川の自然に親しみ、川を調べる活動を行っている。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校の児童は、第4学年の社会科で水の循環について学び、下水道や水環境の大切さ、汚れの原因について学習している。そこから「わたしたちの地域の水環境はどうなっているのだろうか。」という課題をもち、総合的な学習の時間において、瀬野川や三迫川の水生生物の採取・分類活動やパックテストによる川の環境調査活動を継続的に実施している。

また、第6学年では、牡蠣がらや石炭灰ビーズを使った川の水の浄化実験を行い、実際に三迫川に牡蠣がらの堰を築いて浄化活動にも取り組んでいる。また、川の微生物を顕微鏡で観察し、微生物の働きにも目を向ける学習を行っている。

この単元では、人間が環境に及ぼす影響を調べ、自然の中で生物どうしが互いに深いつながりをもちながら生きている姿を再確認し、自分たちの生活と環境との関わりについて考えを深めるとともに、豊かな自然環境を維持し、守っていく態度を育てることを目指している。

#### (2) 指導のポイント

環境を守るための様々な活動に触れることで、いろいろな角度から情報を収集し、総合的に判断する力を育てるようにする。(付けたい力1) また、人間とともに命あるものへの思いやりの気持ちと生命を尊重する態度を育てるようにする。

川を汚さないようにする方法を考えるだけでなく、汚れた川をきれいにしていく仕組みを作ることも大切であるということを考えさせる。(付けたい力3)

実験や観察、調査活動を通して、生物が周囲の環境の影響を受けたり生物同士が関わり合ったりして生きていることを実感させる。

自然界のつながりを総合的に捉えさせるために関係図などに整理させるとともに、人間も他の生物との関わりの中で生きており、単独では生きていけないことを理解させる。


### 3 学習指導案

本時の授業...これまで継続している川での体験や調査結果等を生かしながら、生物同士のつながりや人間の生活と環境との関わりについて理解させ、環境維持のために自分たちにできることを考えさせる実践である。

#### (1) 本時のねらい

人間のくらしが川の水質に与える影響の大きさを理解するとともに、自然の仕組みを生かした川の環境を守る工夫について理解し、自分たちにできることを考える。

#### (2) 対象学年 第6学年

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握	1 前時までの学習を振り返り、課題を確認する。  水の環境を守るためにはどうすればいいだろう。		ほら、この写真と同じ微生物がいるでしょ。
自力解決	2 下水処理場の活性汚泥を、顕微鏡で観察しその役割を推論する。 ・見えた微生物をスケッチする。 ・それは、どんな役割をしていると思うかをノートに書く。	・川の微生物と同じ仲間だということを知らせ、役割について考えさせる。	
集団解決	3 活性汚泥の中の微生物の役割を話し合う。 ・川の微生物と同じように汚れを食べている。 4 排水が川に流れこんだ時の影響を考える。 ・川に住む微生物だけでは、食べきれない。	・活性汚泥は、微生物の塊で、酸素を与えないとすぐに死んでしまうことや、汚れの量が多いと分解しきれないことを知らせる。	
考察	5 生物同士の関わりとそこでの人間の生活の影響について図に整理して考える。 ・人間のくらしは、川だけではなく、植物や動物、人間にも影響を与えている。	・食物連鎖の図を示し、他の生物への影響も考えさせる。	自然界全体のつながりに、人間の生活が与える影響について考察している。
まとめ	6 水の環境を守るためにはどうすればよいか考えて文章にまとめる。	・活性汚泥のように汚れた川をもとに戻す工夫について触れる。	

### 4 児童の反応（授業後の感想等）

普段から川と関わり調査を行っているため、学習内容を実感を伴って理解することができ、また、データを比較したり関連付けたりして総合的に考えることができるようになった。さらに、川から収集したデータの分析に当たっては、季節の変化の影響、場所の違い、生物との関係など、多角的に要因を仮定して行うことができるようになった。

自然界のつながりやバランスに人間の生活が与える影響の大きさに気付き、そのつながりやバランスを維持していくことが、人間にとってもプラスであることに気付くことができた。

川の微生物を調べたり活性汚泥の秘密を探ったりするなど、顕微鏡を活用する場面が増えたことにより、目には見えないものが環境に影響を与えているかもしれないという認識も生まれている。

# 地域の自然素材を生かした環境教育

## 三次市立安田小学校

### 1 活動概要

本校のある安田地域は自然豊かな山間部にあり、ダルマガエルやブッポウソウをはじめとする絶滅危惧種の動物や、カタクリ、ユキワリイチゲ、セツブンソウなどの貴重な山野草が見られる地域である。本校ではその地域の特性を生かし、「安田カリキュラム」を作成・実践するとともに、理科・生活科・総合的な学習の時間における授業の工夫・改善を進めている。また、全校でのクリーン活動や、トレイの回収、駅舎や峠の清掃活動なども長年続く環境保全活動である。これらの学習や活動を通して、児童全員が「安田が大好き」「自然を守りたい」という気持ちがある。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、安田地域に生息している絶滅危惧種『ダルマガエル』の保護・研究活動を進めている。児童が抱いた「なぜ、絶滅危惧種になったのか?」「ダルマガエルを保護するためにはどうすればよいのか?」という疑問を解明するため、地元の「絶滅危惧種保護の会」の方に協力してもらったり、実地調査や観察活動を継続したりして、児童なりの仮説をたて検証を行い、科学研究作品としてまとめている。この学習を通して、自然環境や生態の変化との因果関係や、自然と共存する生き方について考えさせ、「ESD」の考えに沿った環境教育を進めている。



#### (2) 指導のポイント

地域の自然素材、人材、施設を活用し、生活科・理科・総合的な学習の時間を関連させたカリキュラム（安田カリキュラム）を作成し、環境に対する取組を教育課程に位置付け、全児童が関わっていけるようにする。

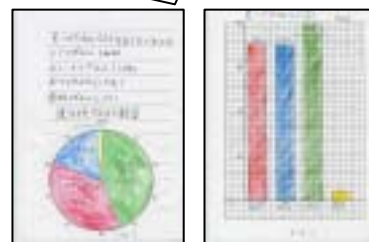
また、児童会活動等を通じ、上級生から下級生へと取組が継続され発展していくようにする。（付けたい力3）

環境に対する知識を身に付けさせるだけでなく、長期を見据えた環境保全のあり方、生物・植物と人間との共存を考えるようにする。

自然の事物や現象と直接触れ合う活動や体験を通して関心や意欲を高めるとともに、課題意識をもたせて問題解決能力の育成につなげていく。

観察・調査の結果はデータや表、グラフに整理させるなどして客観的にとらえさせる。また、学習したことは分かりやすく（論理的に）まとめさせ、地域や保護者の方々に発信する。

グラフにすると、割合がよく分かるよ。






### 3 学習指導案

本時の授業...学校ビオトープや地域の水田で行った生き物調査の結果に基づいてダルマガエルの減少の原因を探り、自分たちにできることを考えさせる実践である。

(1) ねらい

ダルマガエルの研究のまとめを通して、安田の環境を考える。

(2) 対象学年 第5・6学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 ダルマガエルの生息数を確認する。 ・年々減っているようだね。 ・増えた年もあるね。(放流した翌年)	・過去10年間のダルマガエル生息数の推移のグラフを提示する。	
展開	<p>なぜ、ダルマガエルは少なくなってしまったのだろう。</p> <p>2 実地調査での表やグラフから分かることを調べる。 ・今年は特に少ないね。 ・捕獲したカエル全体の2%程度だ。</p> <p>3 観察やインタビューなどから、分かる要因を考えさせる。 ・農業の変化 耕地整理により水路がコンクリートで作られ、深くなった。 田打ちや稲刈を大型機械でしている。 こしひかりを植えるようになり、中干しをするようになった。 農薬の害があるのではないか。</p> <p>・身体的な特徴 足が短く、動きがにぶい。</p> <p>・外来生物が多い。 ザリガニ、今年はアライグマが出現</p>	<p>・1回目、2回目、3回目、4回目、5回目の結果を見て考えさせる。</p> <p>・科学研究のまとめから、減ってきた原因を探らせる。</p> <p>・生物と環境の関係や人間との共存について、考えさせるきっかけを作るようにする。(水路から脱出できるような工夫や、保護地では農薬を減らしたり中干しをしない品種を植える配慮)</p> <p>・日本で生物多様性会議(COP10)が開かれていることを紹介し、世界的な課題であることを知らせる。</p>	
まとめ	<p>ダルマガエルは、環境の変化や外来生物等の影響で減っているのではないか。</p> <p>4 自分たちができることを考える。 ・環境保護について皆に訴える。 ・外来生物を入れない。 ・清掃活動を続け、自然を大切にする。</p>	<p>・自分たちが発信できる方法を考えさせる。(ホームページ、看板、パンフレット、地域発表会、地域ガイド)</p>	

### 4 児童の反応(授業後の感想等)

- ・ダルマガエルは全体のたった2%しかいない。来年は増えて欲しいなと思った。
- ・えさや水質についても調べる必要があると思います。来年は調べます。



- ・ほくはダルマガエルが大好きです。だから増えて欲しいです。自然のいっぱいある安田に住めてよかったです。
- ・外来生物の問題は難しいなと思いました。

わたしたちの安田地域には、絶滅危惧種のダルマガエルがいます。この学習を通して、環境や自然を守ることの大切さと責任を感じました。環境を守る取組として、安田小学校は地域のごみ拾いや清掃活動を続けています。クリーン活動をしていると、道ばたに弁当がらやたばこなどがたくさん落ちていきます。わたしはどうして平気で捨てられるのだろうと腹がたちます。

わたしは、環境や人のことを考えない大人にはなりたくありません。これからも、人間や動物・植物が共に住みやすい安田の自然を守っていきたくです。

# 地域での学びを世界へ～農業と林業を生かす環境教育

## 大竹市立栗谷中学校

### 1 活動概要

本校では、地域を題材にして、平成17年度から大竹市立栗谷小学校との連携学習を進めている。この学習は、「ふるさと栗谷を愛し、グローバルに考え、行動できる子どもを育てていく」ことをねらいとし、地域を題材として未来につながるものを見つけていくことを内容としている。地域の良さ（自然・人間・文化・つながり）を生かした学習を進め、自分を見つめることと他者とのつながりを大切に、「生きる力」を育んでいきたいと考えている。

具体的には、総合的な学習の時間において、4つの学習領域「自然にやさしい農業」、「水とのち」、「身近な他者との関わり」、「森の学習と未来への選択」を設定して取組を進めている。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

小学校第5・6学年の児童と中学校第3学年の生徒の連携学習では、「森の学習と未来への選択」の学習領域で、地域での学びを通して地域の良さを継承し、更に発展させていくという自分たちの役割に気付かせることをめざしている。

生徒は、地域の良さの1つに「自然環境の素晴らしさ」を挙げるものの、地域が抱える課題（過疎化や高齢化）や、地域の森林の喪失状況、里山文化の人的なつながりの大切さに対する関心が低い。そのため、森林の生態系やはたらきについて調べ、地域の方々と一緒に活動する学習を進める中で、地域の森林の状況や人間との関わりがどのように推移してきたかについて理解を深めさせてきた。

本事例では、さらに発展させた学習として、森林保護のための今日的課題や再生可能な資源の有効活用について学習し、自分たちがどのような関わり方ができるのかについて考えさせた。

#### (2) 指導のポイント

小学校との交流を通して、異年齢集団での他者の意見を受け入れつつ、自分の考えとの相違点を踏まえながら合意形成していく態度を身に付けさせる。

同様に地域の高齢者などとの関わりを通して、異なる立場や価値観をもつ他者を尊重し、共に考えていくことがよりよい未来を築くことにつながっていくことを実感させる。（付きたい力2）

生徒が何となく感じている栗谷の「自然環境の素晴らしさ」を、森にいる鳥や植物の観察を通して具体的に実感させるとともに、その環境を維持するためには手入れの継続が必要なことを地域の人々の取組から学ばせる。

過疎化や高齢化といった地域の課題を踏まえながら、地域での学びを通して、持続可能な地域社会の実現に向けた自分たちの役割を考えさせる。（付きたい力3）



### 3 学習指導案

本時の授業...実際に森に入り、鳥や植物などの生態を観察したり森を手入れしたりして、森の働きや手入れの大切さを実感した上で自分たちにできることを考えさせる実践である。

(1) ねらい

「森のはたらきと利用」について発表し、小学生やバイオマス研究会の専門員と意見交換する中で、地域の資源の活用を考え、地域の未来を考えるために持続可能な開発の必要性を認識する。

(2) 対象学年 第3学年(小学校第5・6学年)

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 目標の確認 「森のはたらきと利用」について考えよう。		
	2 庄原市のバイオマス研究会の専門員にインターネットで、発表を聞いてもらい、あとで話をしていただくことを伝える。	・児童生徒の学習意欲を喚起する。	
展開	3 小学生は「森のはたらき」について発表し、中学生から質問を受ける。 中学生は「森のはたらきと利用」について発表し、小学生から質問を受ける。 森のどんな活用方法が考えられるかアイデアを出し合おう。	・児童生徒から出た質問や意見をまとめて板書する。	自分が調べたことや考えたことを正確に、分かりやすく伝えている。(観察)
	4 調べたことや考えたこと並びに森の手入れの作業から、森のどんな活用方法が考えられるか、アイデアを出し合おう。 ・グループで話し合ったことをワークシートにまとめ発表する。 ・発表について、バイオマス研究会の専門員に意見をもらう。 ・専門員の意見についての感想を発表する。	・三倉の山林の具体的な手入れの内容を引き出す。 ・児童生徒の話合いを活性化させるために教師が話し合いをリードする。	
まとめ	「森のはたらきと利用」について、発表を聞いたり、話し合ったりしてわかったことや考えたことをまとめよう。		分かったことや考えたことをまとめている。(自己評価カード)
	5 みんなが出したアイデアや専門員の話からさらに森の活用方法を考えていくことを伝える。	・教師の評価を伝える。	



### 4 生徒の反応(授業後の感想等)

森をガイドしてもらって、葉の裏に字が書ける木があることや、食べられる葉っぱがあることを初めて知った。葉が堆積して微生物で分解されている状態を見て、慣れ親しんでいた森の新しい発見をした。日常では気付かない森の様子を知ることができ、森の豊かさを感じることができた。

森の手入れの作業によって、広葉樹にとっては地面まで陽が入るよさがあり、スギ林では大きなスギだけが残って成長を早めるようにすることが分かった。

「バイオマス研究会」の方から、ペレットストーブを借りて学校で使用した。ペレットストーブの炎はほのかな炎で、体だけでなく心まで温まる感じがした。森の手入れから始まり、最後は自分たちが作った燃料でストーブをたいていると思うとうれしい気持ちになった。



# 「持続可能な社会」づくりの担い手をはぐくむ「ことばの教育」 広島県立広島中学校

## 1 活動概要

生徒が環境問題や人権問題などを地球的な視野で考え、それらの課題を自らの問題として取り組み成果をあげていくためには、「問題や現象の背景の理解」、「多面的かつ総合的なものの見方」をはぐくむことが必要であり、「体系的な思考力、批判力」、「データや情報の分析力」、「コミュニケーション能力」などの育成が欠かせない。これは「ことばの力」そのものであり、この力を育成するため、本校では言語技術を習得し活用する「ことばの教育」を各教科等で継続的に進めている。また、各教科等の学習をディベートやパネルディスカッションといった手法を用いて探究的な学習へと発展させている。

## 2 本実践事例について

### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、「ことばの力」を総合的に活用する活動としてパネルディスカッションを行っている。パネルディスカッションは、複数の立場で一つの論題について協議を行う活動であり、ESDでねらう多面的・総合的な思考を行わせるのに適している。

事前準備としてデータや情報を集めたり分析したりして自分たちの主張をまとめ、複数の立場で論題（テーマ）に対する主張を行い、問題点や解決策を明らかにし、考えを深め合い共有していく。本実践は、「環境の尊重」といった「持続可能な社会」づくりに関する課題を設定し、自分のものの見方や考え方を広げ深めることをねらったものである。

### (2) 指導のポイント

パネルディスカッションやディベートの論題としては、「小売業の深夜営業」、「次世代自動車」といった生徒にとって身近なものであり、かつ環境の維持と経済の発展との関連を考えなければならないものといった、ESDで身に付けさせたい力に関連するものを選定する。（付けたい力1）

パネルディスカッションでは、相手の立場を尊重しながら議論する態度を身に付けさせる。（付けたい力2）

論題について、どちらの立場がよい、あるいは正しいといった判断のみにこだわるのではなく、問題の解決に向け、多面的かつ総合的に考えることが重要であることを指導する。（付けたい力1）

様々な資料を活用し、客観的なデータに基づき、根拠をもって論理的に自分の意見を述べたり、他者の意見を聞いたりできるようにする。



### 3 学習指導案

本時の授業...本校では各教科の内容と関連させながら継続してパネルディスカッション等の取組を行っており、本時は社会科との関連を図って行う実践である。

#### (1) ねらい

相手の立場を尊重しながら、論題について多面的かつ総合的に考え、データや資料を活用して自分の考えを述べたり聞いたりすることができる。

「環境の尊重」という価値論題について、問題解決に向け、自分のものの見方や考え方を深めることができる。

#### (2) 対象学年 第3学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 目標と課題の確認 2 パネルディスカッションの論題を確認する。  論題 「低炭素社会を実現するために、優先すべきことは？」	・論題は、自分たちの生活に関わる問題の中から選ばせる。社会科の学習内容等と関連を図る。	
展開	3 パネルディスカッションの役割と流れを確認する。 役割：司会者、パネリスト、フロア 4 パネルディスカッションを行う。 (1) 司会者が、問題提起をする。 (2) 各パネリストが順番に主張を述べる。 (3) パネリスト相互で質問しあったり、意見を交わしたりする。 (4) フロアも参加し、協議する。 (5) 協議を受けて、各パネリストが再度主張を述べる。 (6) 司会者が討議をまとめる。	例えば、次の三つの立場で主張する。 A 環境面について ・自然を破壊せず、木を植えるなどの活動をするべきである！ B 生活面について ・リサイクル活動やゴミをなくす活動をするべきである！ C 技術開発面について ・地球に優しい技術やエネルギーを開発するべきである！  ・司会者には、次の点を留意させる。 意見の要点をメモしながら聞く。 質問の内容を考えて、他のグループにも問いかけ、広い範囲から答えを引き出す。	データや資料を活用して、主張している。  相手の立場を尊重しながら、論題について多面的かつ総合的に考え、自分の考えを深めている。
まとめ	5 それぞれのグループでパネルディスカッションを振り返る。 (1) パネルディスカッションの進め方を振り返る。 (2) パネルディスカッションの内容を振り返る。	・司会者、パネリスト、フロアの役割ごとに、それぞれ振り返らせる。 ・論題の内容について、自分たちの考えが深まったか、視野が広がったか、今後どういう姿勢で臨んでいきたいか、などについて振り返らせる。	

### 4 生徒の反応（授業後の感想等）

一つの立場からでは見えない問題点が多く出され、論題に対しての考えが広がった。改めて、この論題がもつ問題の重さについて認識が深まった。

パネリストとして主張を行ったが、質問や別の立場からの意見をいただき、自分たちの主張をより深いものとすることができた。

フロアから三つの立場の主張を聞いて、低炭素社会の実現のため、私たちにできることは何かについて、深く考えることができた。はっきりとした答えは出ないこの問題について今後もかかわっていく必要があると認識することができた。





# 持続可能な循環型社会の実現 自ら実践しよう -

尾道市立原田中学校

## 1 活動概要

地域の自然を生かし、37年の伝統をもつ本校の腐葉土づくりをベースに、腐葉土の生産・販売を行う模擬株式会社ナチュラル・リサイクル・コーポレーション（通称：NRC）を、全校生徒が社員となり設立している。エコをテーマに、エコ商品の開発やアルミ缶回収活動やエコクッキング教室の他、花いっぱい運動や一人暮らし高齢者宅訪問等の社会貢献活動等、隣接する原田幼稚園・小学校や地域住民と一体となった活動を行っている。

また、地域伝統文化の担い手として鉦太鼓踊りに取り組んだり、地域活動へボランティアでの参加をしたりしている。さらに、理科・社会科の中でエネルギーを視点とした授業を研究している。

## 2 本実践事例について

### （1）本事例実施の背景・これまでの取組

自らを育んだ地域の自然や文化を生かし、生徒に母校への自信と誇りをもたせるような教育活動を創造しようと、6年前に伝統の腐葉土づくりを生かした模擬株式会社を設立した。この会社では社是の一つを社会貢献と定め、過疎化の進む地域の活性化の起爆剤になることを目指している。

尾道商店街や広島本通りでの販売活動を目指して生徒に試行錯誤させることで、生徒の思考力・表現力が向上するとともに、「原田の腐葉土」の知名度が高まることで、生徒の自信と母校や地域への誇りが生まれている。さらに、これらの活動を通して、地域社会の一員としての自覚が芽生え、これからの地域や社会のあり方を考え、地域活動に積極的に参加する姿が多く見られるようになってきている。

### （2）指導のポイント

生産や販売に際し、お客様の立場に立って考えさせることで、多角的なものの見方を身に付けさせる。（付けたい力1）

販売活動やエコをテーマにした商品の開発をさせる中で、試行錯誤させ、必然的に思考・表現せざるを得ない状況をつくる。（付けたい力2）

学校の強みや特色を生かしながら、学校や地域の現状等を踏まえ、継続した取組になるようにする。（付けたい力3）

アルミ缶の回収、社会貢献活動等、実践力を育成しながら生徒の自発的思考を促す。

活動の成果を上げさせることで、自信と誇りを深め、次の活動への意欲へとつなげていく。

### 3 学習指導案



本時の授業... 模擬株式会社NRCの取組を進めるに当たり, 取組の成果や課題を報告し本年度の目標を考えさせる入社式の実践である。

(1) ねらい

持続可能な社会実現の担い手としての意欲をもつ。

所属する課における自らの役割や分担を知り, 課題意識をもつ。

(2) 対象学年 全学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	<b>【入社式及び辞令交付式】</b> 1 社長より新入社員及び全社員に辞令を交付する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来の社員である原田小学校5・6年生を参観に招く。</li> <li>・厳粛な式とする。</li> <li>・事前に, 希望調査をもとに社長及び参与(教職員)が協議し所属課を調整し決定する。</li> </ul>	
展開	2 社長訓示 3 昨年度までの活動の概要及び成果と課題, 本年度の活動計画の確認 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの社是关于して説明する。</li> <li>・パワーポイントによるプレゼンテーションにより, 写真や図表を示しわかりやすく行う。</li> <li>・『エコ』をテーマに持続可能な社会の実現をめざす。</li> <li>・地域や幼小と連携し, 社会貢献活動も行う。</li> </ul> <p style="text-align: center;">小学生の参観はここまで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課長(3年)にリーダーシップを発揮させ各課の役割や課内での個々の分担を明らかにさせる。</li> </ul>	会社として活動の目的を理解している。  昨年度の課題を踏まえた目標設定ができています。
まとめ	4 各課の目標とキャッチフレーズ作成【課別会議】 5 各課の目標とキャッチフレーズ発表 6 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全課が発表できない場合は, 後日に延期する。</li> <li>・本時を振り返り, 課題を整理させる。</li> </ul>	

### 4 生徒の反応(授業後の感想等)



**腐葉土生産**

作業は大変だけど, お客さんのことを考えて頑張りました。



**落ち葉収集**

地域の方にも協力していただいて集まった落ち葉, 私は卒業するけど, 良質の腐葉土になれよ。

**腐葉土販売**

この腐葉土を使ったら, 花がよく咲いたので今年も買いに来たと言われてうれしかった。



**エコクッキング**

旬の食材を使うこともエコなんだ。我慢ではなく, 楽しくエコ生活できればいい。



**エコC活動 (アルミ缶回収)**  
捨てればただのゴミ, 生かせば資源になるんだ。



**リサイクル施設見学**

資源の有効活用のためには, ゴミをきちんと分別しないとイケない。今までいい加減で迷惑をかけてたんですね。

# 協同的に課題を解決するための切り抜き新聞づくり

## 広島県立呉三津田高等学校

### 1 活動概要

本校の総合的な学習の時間では、生徒に協同的に課題を解決する力を身に付けさせることをねらいとして、第1学年の第1学期に「切り抜き新聞づくり」に取り組んでいる。生徒4～5人のグループで設定したテーマについて新聞記事や写真等の資料を収集し、解決策を多面的・総合的に考え、模造紙程度の大きさの切り抜き新聞を作成する。また、それを地元新聞社主催の「みんなの新聞コンクール」に応募している。

この学習は、生徒が社会にある諸問題を理解するだけでなく、社会事象の背後にある多様な価値観に気づき、多面的に考え、他者と協力・協同していく体験的な活動である。このような視点から、「切り抜き新聞づくり」は「ESD」の考えに沿った取組といえる。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

「切り抜き新聞づくり」は、生徒に現代社会に生起している様々な諸問題への関心をもたせるきっかけになるとともに、自分の進路と結び付けて考えさせることにより、主体的に行動できる人間（「自立的な人間」）を育てるチャンスともなる。本校の総合的な学習の時間のスタートに位置付けているため、新聞を作成することだけが目標にならないよう、設定したテーマについて多面的・総合的に探究させることに留意している。

本校の総合的な学習の時間における新聞づくりは、個人で行うのではなく班単位で行っている。この協同的作業の中で協調性を育むとともに、協同で課題解決を迫られるような体験をさせ、そのことにより人の意思や行動には多様な在り様があることに気付かせるためである。

#### (2) 指導のポイント

グループのテーマを設定させる際には、持続可能な社会の実現に向けて何が課題となるのかということについて問題意識をもたせ、その後の探究活動やメッセージの発信につなげる。

グループで設定したテーマについて、どのような問題があるかを理解するだけでなく、なぜそのような問題が起きているのかについて深く探究し、問題の背後にある多様な見方や考え方、価値観などに気付かせる。(付けたい力1, 2)

問題の解決策としてグループから発信していくメッセージを考える活動を通して、グループメンバーの多様な意見を理解し、尊重しながら、議論していくことを体験させる。(付けたい力2)

課題解決に向けた体験的な協同作業を、3年間を見通して継続的に実施することで、協同して課題を解決していく態度を育成する。(付けたい力2, 3)

### 3 学習指導案

本時の授業...本実践は、生徒がグループに分かれ、グループごとにテーマを設定し、そのテーマについて収集した資料を分析して「切り抜き新聞」を作成する学習活動である。




#### (1) 本時のねらい

現代の社会に生起している諸問題の中から課題を設定し、その解決策を多面的・総合的に考えることができる。

他者と積極的に意見を交流しながら協力して学習することができる。

#### (2) 対象学年 第1学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 切り抜き新聞づくりのポイントを考える。	・「みんなの新聞コンクール」実施要項や昨年度の最優秀作品のコメントなどから考えさせる。	
展開	2 グループのテーマを設定する。	・自分たちの生活との関連を考えさせ、課題意識を明確にさせる。	
	(あるグループのテーマ例) あなたは日本の未来を創造できますか? ~今を築こう未来のために~		
	3 ゲーム遊びが子どもの世界に深く根を下ろすようになってきている。ゲーム遊びは、今、どんな現状にあるのだろう。~ゲームがもたらした親子の溝~ 4 ゲーム遊びをめぐる子どもの現状に対して、親はどんな考えをもっているのだろう。 5 子どものゲーム遊びのデメリットを解決するために、どんな方策があるのだろう。 6 切り抜き新聞の作成 	・現状の中で何が問題か、さらに探究すべき課題を絞らせる。 ・読者に現状を明確に伝えることができるよう、内容を考えさせる。 ・ゲーム遊びに対する否定的な考え方にも様々なものがあること、その背後には価値観の多様性があることに気付かせるようにする。 ・子どものゲーム使用をめぐる親の様々な対応について分類・整理させる。 ・親の対応の本質を深く考えさせ、深みのあるコメントをつくらせる。 ・親がとるべき対応以外にもどのような対応が考えられるか、新聞記事等の資料を収集させる。 ・自分たちが発信するメッセージを、意見を出し合ってまとめさせる。	現代の諸問題の中から課題を設定している。  解決策を多面的・総合的に考えている。  他者と積極的に意見を交流しながら協力して学習している。
まとめ	7 振り返り	・今後、自分たちができることを考えさせ、表現させる。	

### 4 生徒の反応(授業後の感想等)

グループでテーマを設定して資料を収集する段階では、思うような記事を集めることができなかったが、この学習を通して、以前よりも新聞を読むようになり、社会への関心も高まった。

記事に付けるコメントを内容あるものにすることがなかなかできなかったが、テーマについて深く考えていくことによって、記事の背景にある価値観の違いなどに気付き、最後には内容のあるコメントを書くことができた。

発信するメッセージをどうするかについて、グループで意見を出し合い、異なる意見をまとめていく過程で、最初は、一人で作成するよりも難しいことに気付き戸惑っていた。しかし、意見交換を通じてテーマに対する様々な視点や考えに気付き、次第に協力し合って仕上げていくことの良さを実感することができた。



# 国際理解を深める「アートリンク」～姉妹校との合同学習を通して～

## 広島県立広島井口高等学校

### 1 活動概要

第2学年の総合的な学習の時間では、国内外の諸問題に目を向け、幅広い視野から深く物事を考える態度を身に付けるとともに、体験的な学習活動を通して主体的に行動する態度を養うことをねらいとして、「アートリンク」に取り組んでいる。「アートリンク」とは、外国の学校と連携して、両校の生徒たちが統一テーマについて意見を交換するという活動である。具体的には、両校の生徒たちが小グループに分かれ、与えられた統一テーマのもと、独自に設定した個別の課題について意見をまとめて写真と英文で表現したり、ディスカッションを行ったりする。この活動は、生徒たちが異文化理解を深めるとともに、国際的な視野で共通の課題を発見し考察していく契機となっている。この活動を通して、国際的なコミュニケーション能力や社会の諸事象について論理的に考え判断する力、違いを認め合いつつ他者と協力・協同して問題解決を図ろうとする態度などを育成することが目指されており、このような点から、「ESD」の視点に立った学習指導となっている。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では毎年修学旅行でハワイを訪れ、姉妹校のアイエア高校と交流するとともに、総合的な学習の時間に、年間を通した「文通」活動を行っている。手紙のやりとりや種々のカードの交換によって互いの文化に対する興味・関心は高まり、親密度も深まったが、さらにそれぞれの文化やものの考え方について理解を深めることはできないかと考え、「アートリンク」を導入した。「アートリンク」の企画や運営は、双方の担当者がメールで連携しながら進めている。また、これらの活動は英字新聞「The Inokuchi Guardian」(注1)の記事として発表する。(注1)修学旅行や総合的な学習の時間の中で、生徒が設定した課題について情報収集・分析したこと、また自分たちが考えたことを、英文で掲載。毎年2月発行。)

この「アートリンク」プログラムを通して、生徒がねらいとする力を身に付けることができるよう、本プログラムと総合的な学習の時間及び他の学習活動を関連付けながら、継続的に学習を進めてきている。

#### (2) 指導のポイント

各グループが個別の課題を設定する際には、持続可能な社会の実現に向けて何が課題となるのかという問題意識をもたせ、その後の情報収集や分析及び絵の制作や写真の撮影、メッセージの作成につなげる。

両校の生徒が統一テーマについて調べて制作した絵や写真及びメッセージを交換することにより、生徒の関心を高め、国際社会の問題をより身近なものとして捉えられるようにする。

統一テーマに対する多様な立場や考え方の違いに気付かせるとともに、違いを認め、相手の立場や考えを理解し尊重しながら議論していくことを体験させる。(付けたい力2)

姉妹校の生徒との3年間にわたる継続的な合同学習を通して、異なる生活・習慣・価値観などについて理解させるとともに、相手を尊重しつつ協同して課題を解決していく態度を育成する。(付けたい力2, 3)



### 3 学習指導案

本時の授業...本実践は、統一テーマについて各グループで個別の課題を設定して意見をまとめ英文を作成するものである。

#### (1) 本時のねらい

国際社会における諸問題に目を向け、幅広い視野から深く物事を考える態度を身に付けるとともに、国際的なコミュニケーション能力を養う。

体験的な学習活動を通して、自己実現を図ろうとする意欲を高め、将来の進路実現に向けて主体的に行動する態度を養う。

#### (2) 対象学年 第2学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 学習目標とテーマを確認する。 統一テーマ「水」 2 小グループに分かれる。	・写真を用意するためにフィールドワークの必要性があることを押さえる。	
展開1	3 学習資料を読んで、学習方法について理解する。 4 グループごとに、個別の課題を決める。	・環境・歴史・文化等さまざまな視点から統一テーマをとらえさせる。	
	(例) 平和公園の灯籠流し...被爆都市ヒロシマの歴史や灯籠流しに込められた犠牲者に対する慰霊の気持ち、平和を願う心などをどう伝えるか。		
展開2	5 個別の課題について調べ学習をする。 6 写真とメッセージを作成する。 (1) 写真を決める。 (2) メッセージの構成を考え本文を分担して書く。	・写真はイメージを決めさせ、撮影については別途計画を立てさせる。 ・生徒から質問があれば、机間観察をしながら個別に指導する。	課題について資料を収集・分析して、表現している。
	7 姉妹校から届いた写真とメッセージを読む。 8 ディスカッションを行う。 (1) 届いた写真から伝わるものは何か。 (2) 統一テーマに関する相違点や共通点は何か。 (3) 共通の課題となることは何か。 9 ディスカッションを踏まえて自分の考えを文章にまとめる。(英文)	・最初は写真だけを見せ、何の写真かを想像させた後、メッセージを読ませ、最初の印象との違いについて考えさせる。 ・相違点や共通点の発見を通して、異文化理解の重要性やこれからの国際協力のあり方について考えを深めさせる。	ディスカッションをもとに自分の考えをまとめている。
終結	10 振り返り	・この活動を通して明らかになったこと、今後の展望などについて振り返らせる。	

### 4 生徒の反応(授業後の感想等)

統一テーマについて姉妹校の生徒と意見を交換してみても、生徒は見方や考え方の違いに驚く一方、社会事象について幅広い視野から深く考えることによって、多面的・総合的にとらえることの大切さに気付くことができた。

また、生徒は、姉妹校の生徒との手紙や会話、意見交換において、コミュニケーション力の不足を実感し、コミュニケーションの内容と技術の両面を質的に高めたいという意欲が高まった。



# 国際協力について考える「現代社会」の授業

## 広島県立高宮高等学校

### 1 活動概要

本校では、公民科「現代社会」の時間を中心に、総合的な学習の時間の学習活動との関連も図りながら、生徒たちに、国際社会の動向を理解させるとともに、国際社会において日本の果たすべき役割や自分たちは何をどうすべきかを考えさせる取組を行っている。

具体的には、ホームルーム活動においてインドネシアに関する異文化理解の授業を行ったり、JICA（国際協力機構）の国際協力推進員による出前講座を取り入れたりしている。また、総合的な学習の時間における『地球市民講座』選択者は、前期にはアメリカ人ALTと、後期にはカンボジア、中華人民共和国及びインドネシアからの外国人講師と国際交流授業を展開している。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校には、元青年海外協力隊帰国教員（インドネシア派遣）が所属していることから、その教員の体験を交えた青年海外協力隊の国際貢献の事例を、学習の中心的な教材として取り上げている。このことにより、生徒が国際社会における課題を身近なものとしてとらえ、課題の本質は何かを深く追究し、我が国の国際貢献の在り方について考察させることができると考えている。

第3学年の生徒には、10・11月に7時間、「現代社会」の「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の単元において、国際協力に関する授業を本実践を含め集中的に実施した。

「ESD」の視点に立ち、平和などの概念について様々な情報をもとに異なる立場で考えさせ、国際社会の現状について本質を見抜くことができるよう学習を進めている。

#### (2) 指導のポイント

元青年海外協力隊帰国教員の実験の体験を聞いたり、平和貢献活動の様子を具体的に示す写真やVTRを用いたりすることにより、生徒の関心を高め、国際社会の問題をより身近なものとしてとらえられるようにする。

持続可能な国際貢献活動とするためには、現地の人に受け入れられる協力活動（現地の人々が活動を理解し、受け入れ、現地の人々が動いてくれるようになること）である必要があることに気付かせる。（付けたい力2）

異なる文化の生活・習慣・価値観などについて「どちらが正しく、どちらが誤っているか」という、互いの違いを認めつつ、相手の立場や考えを理解し尊重しながら、協同して課題を解決していく態度を育成する。（付けたい力2、3）

写真やVTRを用いる際には、視聴する際のポイントを示し、課題意識をもたせ、その後の探究活動につなげる。



### 3 学習指導案

本時の授業...本実践は公民科「現代社会」の「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の単元において青年海外協力隊の国際貢献活動を取り上げて教材化した実践である。

#### (1) 本時のねらい

青年海外協力隊の活動事例から,日本がアジア圏で行う資金協力以外の国際協力(社会貢献)活動について,平和貢献活動とも関連付けて自己の考えを深めることができる。

#### (2) 対象学年 第3学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 協力隊員としてやって来たのに、「活動する場がない」と言われたら、どうするか考える。 2 VTRを視聴する。 3 学習課題を確認する。 配属先の協同組合が事実上活動停止に陥ったのはなぜだろう。	・VTRを視聴する視点を提示する。 	
展開1	4 協力隊として行った8つの活動をワークシートにしたがって分類する。 5 なぜこんなにたくさんの活動があるのかを考える。	・教育文化,収入向上,環境・衛生の3つに分類させる。 ・国際協力を行うためには,日々の生活の中で,人々の信用を得ていくことが重要であることに気付かせる。 	
展開2	6 なぜインドネシア人が広島の前爆についてのポスターをつくり,現地の人々へ熱く語っているのか考える。	・協力してくれたインドネシアの人が広島の前爆に関する平和学習の様子を見て,前爆を自分たち自身の問題としてとらえ,自分たちが変わらなければならないと認識して活動していることに気付かせる。	協力した現地の人,この活動に対する姿勢について理解している。
まとめ	7 先輩隊員の配属先は現地の人による活動とならず,活動停止となったことを知る。 8 国際協力で大切なことは何かを考える。	・現地の人々の理解と協力を得た上で活動を進めるとともに現地の人々が自分の問題としてとらえるようになることが,持続可能な活動となる上で大切であることに気付かせる。	国際協力において大切なことを自分の言葉で記入している。

### 4 生徒の反応(授業後の感想等)

赴任先がなくなり,活動場所が定まらなくても,自分でできることを見つけていくのはすごいと思った。

日本人が技術提供をしてインドネシアの人が自分で物をつくって売れるようになればいいと思う。日本人が一生懸命になって教えても自分から仕事をしてもらえるようにならないと意味がない。日本人は興味をもってもらえるように努力していかないといけないと思う。

国際協力は,協力する側と現地の人々の両方の人々が動くべきだと思う。大切なのは上手くバランスを取りながら援助していくことだと思った。



参考資料,参考URL

- ・開発教育協会『開発教育 2010 Vol. 57』明石書店 平成22年
- ・『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻』独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター 平成18年
- ・<http://www.jica.go.jp/> (JICA 国際協力機構)